

IBM i
バージョン 7.2

**システム接続
IBM Navigator for i でのシス
テム接続**

IBM

IBM i
バージョン 7.2

**システム接続
IBM Navigator for i でのシス
テム接続**

IBM

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、27 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに付属の電源コードは、他の電気機器で使用しないでください。

本書は、IBM i 7.2 (製品番号 5770-SS1)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本書にはライセンス内部コードについての参照が含まれている場合があります。ライセンス内部コードは機械コードであり、IBM 機械コードのご使用条件に基づいて使用権を許諾するものです。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM i
Version 7.2
Connecting to your system
Connecting to Your system with IBM
Navigator for i

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2014.4

© Copyright IBM Corporation 1999, 2013.

目次

アプリケーション管理	1	管理システムおよびセントラル設定の計画	12
アプリケーション管理の PDF ファイル	1	アプリケーション管理のセットアップ	13
アプリケーション管理の概念	2	アプリケーション管理のローカル設定のセットアップ	13
アプリケーション登録	2	管理システムのセントラル設定のセットアップ	14
アプリケーションの登録 (ローカル設定)	2	アプリケーション管理の管理	15
アプリケーションの登録 (セントラル設定)	3	アプリケーション管理へのアプリケーションの登録 (ローカル設定)	15
System i Navigator プラグインおよびアプリケーション管理	4	管理システムへのアプリケーションの登録 (セントラル設定)	16
機能のアクセス設定	4	機能のアクセス設定の処理	17
機能へのアクセスを決定する方法	4	System i Navigator でのユーザーまたはグループのアクセス設定の処理	17
管理システム	5	セントラル設定の処理	18
クライアントが最初に管理システムを見つける方法	6	アプリケーション管理シナリオ	19
セントラル設定の拡張設定	7	シナリオ: アプリケーション管理のセットアップ	20
ユーザーの拡張設定の取得方法	7	シナリオ: System i Navigator での管理システムのセントラル設定のセットアップ	23
強制値と推奨値	8		
マネージメント・セントラルおよびアプリケーション管理	9		
変更が有効になる時点	10		
セキュリティー・ツールとしてのアプリケーション管理	11		
アプリケーション管理の IBM i Access for Windows へのインストール	11	特記事項	27
アプリケーション管理ストラテジーの計画	11	プログラミング・インターフェース情報	29
アプリケーション管理の計画	12	商標	29
		索引	31

アプリケーション管理

アプリケーション管理は、オプションでインストール可能な **System i® Navigator** のコンポーネントであり、**IBM® Navigator for i** のパーツです。管理者は、アプリケーション管理を使用して、特定のシステム上のユーザーおよびグループが使用できる機能やアプリケーションを管理できます。

この場合の管理には、クライアント・アプリケーション (**System i Navigator**) または Web (**IBM Navigator for i**) を通じてシステムにアクセスするユーザーが使用できる機能の管理も含まれます。Windows クライアントからシステムにアクセスする場合、Windows ユーザーではなく、オペレーティング・システムのユーザー・プロファイルにより使用可能な機能が判別されます。

アプリケーション管理は、システム上で管理可能な機能を定義したアプリケーションに対するアクセスを制御します。管理可能な機能を定義したアプリケーションの例として、**System i Navigator**、**IBM Navigator for i**、および **IBM i Access for Windows** などがあります。例えば、基本オペレーションのプリンター出力機能に対するアクセスを許可または拒否したり、**System i Navigator** の基本オペレーションの管理可能な機能全体に対するアクセスを許可または拒否したりできます。

アプリケーション管理の機能

アプリケーション管理に装備されている便利なグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を使用すると、ユーザーやグループが使用可能な機能を管理できます。ユーザーが管理可能な機能にアクセスする際に、システムはそのユーザーのアクセス設定を読み込んで、その機能にアクセス可能であるかどうかを判別します。

注: アプリケーション管理の **IBM Navigator for i Web** インターフェースには、マネージメント・セントラルが処理するシステム間機能は組み込まれていません。

セントラル設定とは

これまでは、機能へのアクセスを拒否または許可することしかできませんでした。IBM i Access for Windows クライアントが使用するプロパティの多くを中央で管理する管理システムをセットアップして、アプリケーション管理の拡張設定 (セントラル設定) を処理できるようになりました。

管理システムを構成した場合は、そのシステム上で**セントラル設定**について作業することができます。**セントラル設定**を備えたシステムのタイプは、管理システムだけです。管理システムで**セントラル設定**を使用して、どのアプリケーションをユーザーとグループが使用できるかを管理することができます。また、**セントラル設定**を使用すると、ユーザーやグループの拡張設定をカスタマイズすることもできます。これらの拡張設定を使用して、特定のユーザーやグループが使用可能な環境を管理できます。また、管理者は、拡張設定を使用して、パスワード、接続、サービス、言語の設定を制御したり、新規プラグインがインストール可能であることを自動的に判別するかどうかを指定したりできます。

アプリケーション管理の PDF ファイル

この情報の PDF ファイルを表示および印刷することができます。


この文書の PDF 版を表示またはダウンロードするには、「アプリケーション管理」を選択します。

PDF ファイルの保存

表示用または印刷用の PDF ファイルをワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ご使用のブラウザで該当の PDF リンクを右クリックする。
2. PDF をローカルに保管するオプションをクリックする。
3. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
4. 「保存」をクリックする。

Adobe Reader のダウンロード

これらの PDF を表示または印刷するには、Adobe Reader がシステムにインストールされている必要があります。Adobe Reader は、Adobe の Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  から無償でダウンロードすることができます。

アプリケーション管理の概念

アプリケーション管理についての作業を開始する前に、いくつかの概念について習熟しておく必要があります。

アプリケーション登録

アプリケーションを管理するには、アプリケーション管理を使用して該当のアプリケーションを登録する必要があります。

アプリケーションを登録すると、アプリケーション管理はシステム上にそのアプリケーションの管理可能な機能とデフォルト設定を作成します。システム管理者は、これらの設定を使用して、機能にアクセス可能なユーザーを管理できます。

管理可能な機能は、アプリケーション管理を使用することによって、アクセスを許可または拒否できる機能です。管理可能な機能は、「アプリケーション管理」ダイアログの機能の列に表示されます。管理可能な機能には、基本オペレーション、ワーク・マネージメント、構成およびサービスがあります。

アプリケーションは、ローカル設定またはセントラル設定で登録できます。

関連概念:

4 ページの『System i Navigator プラグインおよびアプリケーション管理』

アプリケーション管理を介して管理する追加のプラグインがある場合には、それらのプラグインを登録する必要があります。

アプリケーションの登録 (ローカル設定)

「アプリケーション (ローカル設定)」ダイアログには、System i Navigator とクライアント・アプリケーションのリストが表示されます。

このリストには、IBM i オペレーティング・システム上に登録されているアプリケーションや、クライアント PC にインストール済みで IBM i オペレーティング・システムに登録可能なアプリケーションが含まれます。このダイアログには、ホスト・アプリケーションは表示されません。ホスト・アプリケーションは通常、ホスト・システムにインストールされたときに管理可能な機能を登録するからです。アプリケーションは、ユーザーの PC にインストールしてからシステムに登録する必要があります。アプリケーションの登録後、アプリケーション管理を実行するその他すべての PC でも、アプリケーションの管理可能な機能をシステムから管理したり除去したりできるようになります。

アプリケーション管理は、ローカル設定で登録するアプリケーションを以下のカテゴリに編成します。

表1. アプリケーション管理のカテゴリ (ローカル設定)

カテゴリ	説明
System i Navigator	このカテゴリには、 System i Navigator およびすべてのプラグインが含まれます。 例: 基本オペレーション
クライアント・アプリケーション	このカテゴリに該当するのは、アプリケーション管理を通じて管理されるクライアントに機能を提供する、その他すべてのクライアント・アプリケーションです。 例: IBM i Access for Windows
ホスト・アプリケーション	このカテゴリに該当するのは、完全にシステムに常駐し、アプリケーション管理を通じて管理される機能を提供する、その他すべてのアプリケーションです。例: IBM i のバックアップ、リカバリー、およびメディア・サービス。

関連タスク:

15 ページの『アプリケーション管理へのアプリケーションの登録 (ローカル設定)』

アプリケーション管理を使用して、ユーザーまたはグループに対して特定の機能へのアクセスを許可または拒否する場合、アプリケーションを登録する必要があります。

アプリケーションの登録 (セントラル設定)

アプリケーションを最初に登録 (または追加) する際には、デフォルトで、すべてのユーザーおよびグループがアプリケーションの機能に対するアクセスを許可されます。登録済みのアプリケーションは、アプリケーション管理を使用して管理でき、そのアプリケーションの機能にアクセスするユーザーを制御できます。

アプリケーション管理からアプリケーションを除去すると、アプリケーションの管理可能な機能およびアプリケーション管理を使用して追加されたアクセス設定が除去されます。アプリケーション管理を除去すると、デフォルトですべてのユーザーが再度アプリケーションの機能にアクセスできるようになります。また、IBM i Access for Windows アプリケーションの拡張設定は、デフォルト設定に戻ります。

「アプリケーション (セントラル設定) (Applications (Central Settings))」ダイアログには、セントラル設定をサポートするクライアント・アプリケーションのリストが表示されます。

アプリケーション管理を使用して、管理システムに以下のアプリケーションを登録できます。

表2. アプリケーション管理のアプリケーション (セントラル設定)

アプリケーション	説明
IBM i Access for Windows	IBM i Access for Windows の管理可能な機能に対するアクセスを、許可および拒否できます。
IBM i Access for Windows の拡張設定	パスワード、接続、サービス、環境、言語、およびプラグインなどの拡張設定を指定できます。

関連タスク:

16 ページの『管理システムへのアプリケーションの登録 (セントラル設定)』

アプリケーション管理を使用して、ユーザーまたはグループに対して特定の機能へのアクセスを許可または拒否する場合、アプリケーションを登録する必要があります。

System i Navigator プラグインおよびアプリケーション管理

アプリケーション管理を介して管理する追加のプラグインがある場合には、それらのプラグインを登録する必要があります。

アプリケーション管理は、以下の場所に **System i Navigator** プラグインの管理可能な機能を表示します。

- 階層内のプラグイン機能の位置を示すために、**System i Navigator** 階層内の読み取り専用値として。
- プラグインの第 1 レベル・フォルダー内。プラグイン機能のアクセス設定はこのフォルダーからのみ管理が可能です。

プラグインを管理するときには、管理者は管理可能な機能へのアクセスだけを許可または拒否することができます。プラグインを管理する唯一の方法は、アプリケーション管理にあるローカル設定を使用することです。プラグインは、セントラル設定ではサポートされていません。

関連概念:

2 ページの『アプリケーション登録』

アプリケーションを管理するには、アプリケーション管理を使用して該当のアプリケーションを登録する必要があります。

機能のアクセス設定

システムがサポートする管理可能な機能には、それぞれにいくつかの関連するアクセス設定があります。アクセス設定により、ユーザーの機能へのアクセスが拒否または許可されるかどうかを決定します。

アクセス設定には以下があります。

デフォルト・アクセス

ユーザーおよびグループに対し機能へのアクセスが明示的に許可または拒否されていない場合、機能へのユーザー・アクセスを決定します。

すべてのオブジェクト・アクセス

すべてのオブジェクトへのシステム特権を持つユーザーまたはグループに対し、機能へのアクセスを許可するかどうかを指示します。これを選択し、ユーザーまたはグループがすべてのオブジェクトのシステム特権を持つ場合、この設定は他のすべてのアクセス設定を指定変更します。

カスタマイズされたアクセス

ユーザーまたはグループに対し機能へのアクセスを明示的に拒否または許可するかどうかを指示します。

関連タスク:

12 ページの『アプリケーション管理の計画』

これらの質問は、アプリケーション管理のローカル設定を介してどの機能を管理するかについて計画するときに役立ちます。さらに、ユーザーおよびグループがそれらの機能に対してどのタイプのアクセス権を持つかも決定します。

機能へのアクセスを決定する方法

アプリケーション管理は機能のアクセス設定を評価し、ユーザーがその機能にアクセスを許可または拒否されるかどうかを決定します。

すべての機能には、デフォルト設定およびすべてのオブジェクトのアクセス設定があります。また、機能のアクセス設定をカスタマイズすることで、特定のユーザーまたはグループのこの機能に対するアクセスを許可または拒否できます。

以下のステップにより、アプリケーション管理はユーザーが特定の機能にアクセスできるかどうかを決定します。

1. 機能に対し「すべてのオブジェクト・アクセス」が選択されている場合で、ユーザーがすべてのオブジェクトのシステム特権を持つ場合、ユーザーは機能のアクセスを許可されます。そうでない場合は、次のステップに進みます。
2. ユーザーが「カスタマイズされたアクセス」設定によりアクセスを拒否または許可されている場合は、「カスタマイズされたアクセス」設定がユーザーの機能へのアクセスを決定します。そうでない場合は、次のステップに進みます。
3. ユーザーが 1 つ以上のグループのメンバーであればステップ 4 へ、そうでない場合はステップ 7 へ進みます。
4. 機能に対し「すべてのオブジェクト・アクセス」が選択されている場合で、グループがすべてのオブジェクトのシステム特権を持つ場合、ユーザーは機能へアクセスすることができます。そうでない場合は、次のステップに進みます。
5. ユーザーが「カスタマイズされたアクセス」設定が「アクセス許可」になっているグループに属している場合、ユーザーは機能のアクセスを許可されます。そうでない場合は、次のグループについてステップ 4 を行います。アプリケーション管理がそれぞれのグループの処理を行った後、ステップ 6 に進みます。
6. ユーザーが「カスタマイズされたアクセス」設定が「アクセス否認」になっているグループに属している場合、ユーザーは機能のアクセスを拒否されます。そうでない場合は、次のステップに進みます。
7. 「デフォルト・アクセス」設定がユーザーの機能へのアクセスを決定します。

管理システム

管理システムは、IBM i Access for Windows クライアントが使用するプロパティーの多くを管理するために使用されるセントラル・システムです。

システムを管理システムとして動作させるには、システム管理者がアプリケーション管理を使用して事前にシステムを構成しておく必要があります。管理システムの設定は、IBM i Access for Windows の「プロパティー」 > 「管理システム」ページで定義されます。システムがすでに管理システムとして定義されている場合は、システムを右クリックして「アプリケーション管理」を選択すると、「ローカル設定 (Local Settings)」および「セントラル設定」という追加の選択項目が表示されます。通常、1 つのネットワークで管理システムとして動作するシステムは 1 つだけです。ネットワークの例については、図 1 を参照してください。この管理システムは、IBM i Access for Windows クライアントがアプリケーション管理のセントラル設定のソースとして使用します。ネットワークでは、複数のシステムを管理システムとして定義できますが、IBM i Access for Windows クライアントは、セントラル設定として単一の管理システムのみを使用します。

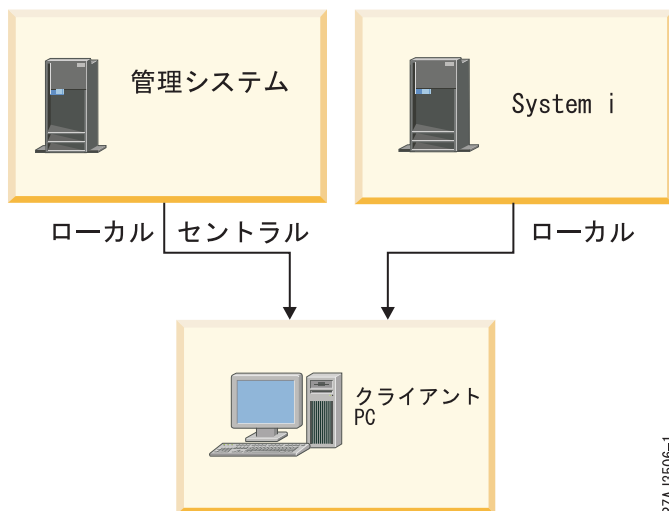


図1. クライアント PC がシステムに接続する場合、接続するシステムからローカル設定が送信される。管理システムに接続する場合には、セントラル設定は管理システムからクライアント PC に送信される。

IBM Navigator for i の場合、IBM Navigator for i を実行しているシステムは管理システムとして動作します。「IBM i の管理」 > 「システム」を展開し、「アプリケーション管理」をクリックすると、「ローカル設定」と「セントラル設定」の 2 つの選択項目が表示されます。

管理システムでは、「ローカル設定 (Local Settings)」を選択することができます。これらの設定によって、管理可能な機能へのアクセスが許可または拒否されます。管理システムのローカル設定は、管理システムにのみ適用されます。

システム管理者は、ローカル・システム上でアプリケーション管理を使用してユーザーやグループのアクセス設定を処理できますが、管理システムでは、それ以外の方法でユーザーやグループを管理できます。管理者は、管理システムで「セントラル設定」を選択して、拡張設定について作業することができます。拡張設定により、特定のユーザーやグループが使用可能な環境を制御できます。システム管理者は、パスワード、接続、サービス、および言語の設定や、新規プラグインがインストール可能である場合に自動的に判別するかどうかを制御できます。

注: 管理システムで拡張設定についての作業をするには、セキュリティー管理者 (*SECADM) およびすべてのオブジェクト (*ALLOBJ) のシステム特権が必要です。これは、アプリケーション管理の他の設定とは異なります。他の設定では、変更を行うのにセキュリティー管理者 (*SECADM) システム特権だけが必要です。

クライアントが最初に管理システムを見つける方法

各 IBM i Access for Windows クライアントは、特定の管理システムと、そのシステム上のユーザー・プロファイルを使用して、セントラル設定を取得します。この管理システムおよびユーザーは、クライアント上で、現行の管理システムおよびユーザーと呼ばれます。

クライアントに現行の管理システムおよびユーザーがある場合、「スタート」 > 「プログラム」 > 「IBM i Access for Windows」 > 「IBM i Access for Windows のプロパティ」 > 「管理システム」を選択すると、これらのシステムおよびユーザーを表示できます。IBM i Access for Windows クライアントで、クライアントのセントラル設定のソースとして使用される管理システムおよびユーザーを見つける方法は、次の 3 とおりあります。

- 管理者は、IBM i Access for Windows のインストール・イメージ内の管理システムを指定できます。クライアントに現行の管理システムがすでにある場合を除いて、このインストール・イメージ内に指定される管理システムが現行の管理システムとして使用されます。
 1. システムを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
 2. 「インストール・イメージにある管理システムの設定 (Set Installation Image Administration System)」をクリックします。
 3. インストール・イメージの場所を指定するか、または「参照」をクリックしてインストール・イメージを見つけます。
 4. 更新されたインストール・イメージを使用してインストールするすべてのクライアントについて、初期管理システムとして指定する管理システムを選択します。
 5. 「OK」をクリックします。
- 「IBM i Access for Windows のプロパティ」ページから、管理システムを指定します。
 1. 「IBM i Access for Windows のプロパティ」を開きます。
 2. 「管理システム」タブを選択します。
 3. 「選択可能な管理システムおよびユーザー」リストに接続する管理システムが表示されない場合は、「追加」をクリックして、管理システムおよびユーザーをこのリストに追加します。
 4. 「選択可能な管理システムおよびユーザー」リストから管理システムを選択し、「現行として設定」をクリックします。
- クライアントの現行の管理システムが手動で指定されていない場合は、クライアントが接続する最初の管理システムが、クライアントの現行の管理システムおよびユーザーとして使用されます。

セントラル設定の拡張設定

拡張設定は、アプリケーション管理にあるセントラル設定の一部であり、管理システムからのみ管理することができます。

管理者は、拡張設定を使用することにより、単純なアクセス設定 (アクセスの許可または拒否) よりも複雑な設定を制御できます。管理者は、拡張設定を使用して、IBM i Access for Windows クライアントに自動的にダウンロードされる環境やシステム接続のセットを定義できます。

これらの環境およびシステム接続は、管理者が拡張設定で強制的に設定し、クライアントはこの設定を変更できません。さらに、拡張設定を使用して、IBM i Access for Windows クライアントがパスワード、接続、サービス、および言語属性に特定の設定を使用することを強制または推奨したり、インストールに新規プラグインが使用可能であることを自動的に判別したりすることができます。

注:

1. セントラル設定は、OS/400® V5R2 より前のオペレーティング・システムでは使用できません。V5R2 より前の IBM i Access for Windows クライアントは、セントラル設定を使用できません。
2. 管理システムで拡張設定についての作業をするには、セキュリティー管理者 (*SECADM) およびすべてのオブジェクト (*ALLOBJ) のシステム特権が必要です。これは、アプリケーション管理の他の設定とは異なります。他の設定では、変更を行うのにセキュリティー管理者 (*SECADM) システム特権だけが必要です。

ユーザーの拡張設定の取得方法

アプリケーション管理は、クライアントの現行の管理システムおよびユーザーを使用して、クライアントのセントラル設定 (拡張設定を含む) のソースとして使用するシステムおよびユーザーを判別します。

クライアントに現行の管理システムおよびユーザーが存在しない場合には、アプリケーション管理はセントラル設定 (拡張設定を含む) をダウンロードしません。

管理システムについて、アプリケーション管理がユーザーの拡張設定を取得する方法の概略を、以下のステップで説明します。

1. 管理システムにユーザーの拡張設定が存在する場合、アプリケーション管理はそれらの値を使用します。そうでない場合は、次のステップに進みます。
2. 管理システムに拡張設定が存在するグループにユーザーが属する場合、アプリケーション管理はそれらの値を使用します。最初に見つかったグループの設定が使用されます。グループを検索するときには、最初にユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルをチェックし、その後に補助グループをチェックします。グループの設定が見つからない場合、アプリケーション管理は次のステップに進みます。
3. 管理システムにユーザーのデフォルト拡張設定が存在する場合、アプリケーション管理はこれらの値を使用します。そうでない場合は、ユーザーの拡張設定は存在しません。

強制値と推奨値

アプリケーション管理において、拡張設定の横にあるパッドロック・アイコンは、強制された状態または推奨された状態を表します。

管理者は、拡張設定を強制または推奨することができます。

強制された状態



ロックされたパッドロックは、強制された状態を表します。機能が強制された状態にある場合、システム管理者はこの機能の値を強制し、変更不可にします。つまり、システム管理者はこの機能の値を定義済みであり、クライアント・ユーザーはこの値を変更したり、指定変更することができません。

推奨された状態



アンロックされたパッドロックは、推奨された状態を表します。機能が推奨された状態にある場合、システム管理者はこの機能の値を推奨しています。つまり、システム管理者はこの機能の値を定義済みですが、クライアント・ユーザーはこの値を変更したり、指定変更することができます。

例

管理者は、クライアント・ユーザーがシステムに接続する際に Secure Sockets Layer (SSL) を使用する必要があることを指示します。管理者がクライアント・ユーザーに SSL による接続を推奨する場合、クライアント・ユーザーはその推奨値を指定変更して、SSL を使用せずに接続することが可能です。しかし、管理者がクライアント・ユーザーに SSL による接続を強制する場合、クライアントに定義されているすべての既存の接続は、SSL を使用するように変更されます。新規の接続も SSL を使用し、クライアント・ユーザーはこの値を指定変更できません。

マネージメント・セントラルおよびアプリケーション管理

マネージメント・セントラルを介してアプリケーション管理にアクセスできます。

System i Navigator を使用してこれにアクセスするには、「マネージメント・セントラル」を右クリックして「アプリケーション管理」を選択するか、IBM Navigator for i で、「IBM i の管理」 > 「システム」を展開し、「アプリケーション管理」をクリックします。これにより「アプリケーション管理」メイン・ダイアログが開きます。

System i Navigator で、「ユーザー接続」コンテナの下で選択したシステムから開かれた「アプリケーション管理」ダイアログでは、「修正インベントリー」および「収集サービス」が読み取り専用で表示されます。これらの機能を管理システムに登録しないと、機能は表示されません。これらの機能は、マネージメント・セントラルを介してアプリケーション管理にアクセスした場合にのみ管理できます。

マネージメント・セントラルが存在するネットワークでアプリケーション管理が動作する方法を確認するには、図 2 を参照してください。



図2. クライアント PC がシステムに接続する場合、接続するシステムからローカル設定が送信される。管理システムに接続する場合には、セントラル設定は管理システムからクライアント PC に送信される。このネットワークでは、アプリケーション管理またはマネージメント・セントラルの機能は変更されない。

マネージメント・セントラルのセントラル・システムを、管理システムとして定義できます。同じシステムをセントラル・システムおよび管理システムとして定義した場合、これらいずれのシステムの運用にも変化はありません。ネットワークの例については、図 3 を参照してください。



図3. 管理システムとセントラル・システムを同じシステムにすることができる。これにより、アプリケーション管理またはマネージメント・セントラルの機能が変更されることはない。クライアント PC がシステムに接続する場合、接続するシステムからローカル設定が送信される。管理システムに接続する場合には、セントラル設定は管理システムからクライアント PC に送信される。

変更が有効になる時点

クライアントでローカル設定またはセントラル設定への変更が有効になる時点は、変更のタイプによって異なります。

変更には、2 つの主なタイプがあります。変更は、ユーザーまたはグループのアクセス設定 (ローカル設定)、あるいは管理システムのセントラル設定について行われます。

ローカル設定

アプリケーションによって異なりますが、変更は以下の時点まで確認することはできません。

- クライアント PC の次のシステムへのサインオン時。これは、**System i Navigator** 機能に該当します。
- 次にクライアント PC が再始動するとき、または変更してから 24 時間後のうち、どちらか先に当てはまった条件。これは、**IBM i Access for Windows**機能に該当します。

セントラル設定

管理システムの拡張設定に対する変更の場合は、システム・プロパティの「管理システム」ページに設定されているスキンの頻度に応じて有効になる時点が異なります。スキンの頻度の範囲は、クライアントのセッションごとから 14 日に 1 回までです。システム管理者は、システムを管理システムとして構成する際に、この値を指定します。

セキュリティ・ツールとしてのアプリケーション管理

アプリケーション管理をセキュリティ・ツールとして使用しないでください。

アプリケーション管理は、クライアント PC で使用できる機能をカスタマイズするために設計されたものです。アプリケーション管理をクライアント PC のセキュリティ管理には使用しないでください。理由は以下のとおりです。

- アプリケーション管理は、Windows のレジストリーを使用してクライアント PC に対する制限をキャッシュします。熟練ユーザーはアプリケーション管理から機能へのアクセスを制限されていても、レジストリーを編集することによってその機能にアクセスすることができます。
- 同一のリソースに対して複数のインターフェースが存在する場合、アプリケーション管理によって 1 つのインターフェースを制限しても、同じリソースに対する他のインターフェースを制限することにはなりません。例えば、アプリケーション管理から **System i Navigator** のデータベース機能へのユーザーのアクセスを制限することはできません。しかしその場合でも、ユーザーは、オープン・データベース・コネクティビティ (ODBC) またはデータベース制御言語 (CL) コマンドなどの他のデータベース・インターフェースを使用することによって、データベース・ファイルにアクセスすることができます。

アプリケーション管理の IBM i Access for Windows へのインストール

アプリケーション管理は IBM i Access for Windows をインストールする際にインストールできます。

IBM i Access for Windows をすでにインストールしている場合は、IBM i Access for Windows フォルダから「選択セットアップ」を選択して、追加のコンポーネントをインストールできます。

アプリケーション管理をインストールするには、以下のステップを行います。

1. IBM i Access for Windows をインストールします。詳しくは、「IBM i Access for Windows: インストールおよびセットアップ」を参照してください。セットアップ・ウィザードが表示されたら、ステップ 2 に進みます。
2. アプリケーション管理をインストールします。アプリケーション管理サブコンポーネントをインストールするには、IBM i Access for Windows をインストールする際に「**カスタム**」インストール・オプションを選択します。
 - a. セットアップ・ウィザードの「**コンポーネント選択**」ページで、「**System i Navigator**」を展開し、サブコンポーネントのリストを表示します。
 - b. アプリケーション管理およびインストールしたい任意の追加サブコンポーネントを選択し、「**カスタム**」インストールまたは「**選択セットアップ**」を継続します。

アプリケーションの管理を開始するにあたって、アプリケーション管理の構成をこれ以上は行う必要はありません。

アプリケーション管理ストラテジーの計画

アプリケーション管理から使用できるすべての機能を最適な方法で使用するには、企業に特有のストラテジーを計画することが必要となります。

ストラテジーを計画するときには、アプリケーション管理を介してアプリケーションを調整する方法を決定するだけでなく、アプリケーション管理のセントラル設定を含む管理システムを計画する必要があります。

アプリケーション管理の計画

これらの質問は、アプリケーション管理のローカル設定を介してどの機能を管理するかについて計画するときに役立ちます。さらに、ユーザーおよびグループがそれらの機能に対してどのタイプのアクセス権を持つかも決定します。

計画の過程における最初のステップは、アプリケーション管理のローカル設定について計画することです。以下の質問は、アプリケーション管理からローカル設定の管理を開始するために必要な情報を集めるときに役立ちます。

1. アプリケーション管理を使用してどのアプリケーションを管理するか。

注: アプリケーション管理を使用して管理できるのは、管理可能な機能を定義したアプリケーションのみです。例えば、**System i Navigator** や **IBM Navigator for i** には管理可能な機能として、基本オペレーション、さらに構成およびサービスがあります。

2. アプリケーションの管理可能な機能に対し、どのタイプのアクセスをユーザーに許可するか。

- a. すべてのユーザーに対して機能へのアクセスを許可する場合には、機能に対して「**デフォルト・アクセス**」設定を使用します。そうすると、デフォルトですべてのユーザーがその機能にアクセスできるようになります。
- b. すべてのユーザーが、すべてのオブジェクトのシステム特権で機能にアクセスできるようにするには、その機能に対して「**すべてのオブジェクト・アクセス**」設定を使用します。

注: この値を使用すると、すべてのオブジェクトのシステム特権を持つすべてのユーザーが、「**カスタマイズされたアクセス**」設定を使用して明示的にアクセスを拒否されている場合でも、この機能にアクセスできます。

- c. 「**デフォルト・アクセス**」とは異なるアクセス設定を必要とするグループを識別します。これらのグループに対しては「**カスタマイズされたアクセス**」設定を指定する必要があります。
- d. ユーザーが属するグループのデフォルト・アクセス設定またはカスタマイズされたアクセス設定とは異なるアクセス設定を必要とするユーザーを識別します。その場合、これらのユーザーそれぞれについて、「**カスタマイズされたアクセス**」設定を指定する必要があります。
- e. グループ外のユーザーで、「**デフォルト・アクセス**」設定とは異なるアクセス設定を必要とするユーザーを識別します。これらのユーザーについてはそれぞれ「**カスタマイズされたアクセス**」設定を指定する必要があります。

関連タスク:

13 ページの『アプリケーション管理のローカル設定のセットアップ』

これらのステップでは、アプリケーション管理で機能を管理するために必要なアクションの概略について説明します。これらのステップは、『アプリケーション管理の計画』におけるユーザーの回答に基づいて完了する必要があります。

関連資料:

4 ページの『機能のアクセス設定』

システムがサポートする管理可能な機能には、それぞれにいくつかの関連するアクセス設定があります。アクセス設定により、ユーザーの機能へのアクセスが拒否または許可されるかどうかを決定します。

管理システムおよびセントラル設定の計画

これらの質問は、管理システムを計画する際に役立ちます。システム管理者は、管理システムにするシステムや、管理対象となるユーザーについて計画する必要があります。

管理システムには、セントラル設定があります。セントラル設定は、IBM i Access for Windows にのみ適用されるので、IBM i Access for Windows のサポートするセントラル設定を管理する場合にのみ、管理システムについて計画する必要があります。以下の質問に答え、管理システムをセットアップするために必要な情報を集めます。

1. どのシステムを管理システムとして使用するか (該当するシステムがある場合)
2. どのスキャンの頻度を使用するか。クライアントがセントラル設定を更新する頻度が多すぎる場合、この設定はパフォーマンスに影響を与える可能性があります。
 - a. クライアント・ユーザーがクライアントにサインオンするごとに、システムで管理システムに保管されている設定に一致するようにクライアントの設定を更新するには、「**クライアント・セッションごと**」を指定します。
 - b. 一定の期間を経過した後に、システムで管理システムに保管されている設定に一致するようにクライアントの設定を更新するには、「**日数 (Number of days)**」を指定します。例えば、クライアントの設定を毎日更新する場合には、「**日数 (Number of days)**」に 1 を指定します。セントラル設定では、頻繁な変更が想定されていないため、スキャンの頻度を 1 日に 1 回、もしくはそれ以下に設定し、クライアントのパフォーマンスに影響を与えないようにすることをお勧めします。
3. どのユーザーおよびグループをアプリケーション管理で管理するか。
 - a. すべてのユーザーを管理する場合は、「**デフォルトでユーザーを管理 (Administer users by default)**」を選択します。そうすると、デフォルトでシステム上のすべてのユーザーは管理システムによって管理されます。「**デフォルトでユーザーを管理 (Administer users by default)**」設定を、特定のユーザーに指定変更する場合には、ステップ b に進みます。
 - b. 「**ユーザー管理のカスタマイズ (Customize Administration of Users)**」を選択します。
 - c. 「**追加**」ボタンおよび「**除去**」ボタンを使用して、ユーザーとグループを「**管理されているユーザー (Users administered)**」リストおよび「**管理されていないユーザー (Users not administered)**」リストに追加、またはリストから除去します。
4. クライアントは管理システムをどのように見つけるか。詳しくは、6 ページの『クライアントが最初に管理システムを見つける方法』を参照してください。

アプリケーション管理のセットアップ

アプリケーション管理を構成するには、各システムのローカル設定を個別に構成する必要があります。また、管理システムも構成する必要があります。

セントラル設定の管理に使用するシステムは、管理システムです。

関連資料:

19 ページの『アプリケーション管理シナリオ』

これらのシナリオでは、アプリケーション管理を企業戦略に適用する方法を説明します。これらのシナリオではある企業の計画について説明し、アプリケーション管理を使用してその計画を実行する方法について説明します。

関連情報:

アプリケーション管理の構成

アプリケーション管理のローカル設定のセットアップ

これらのステップでは、アプリケーション管理で機能を管理するために必要なアクションの概略について説明します。これらのステップは、『アプリケーション管理の計画』におけるユーザーの回答に基づいて完了する必要があります。

ローカル設定をセットアップするには、以下のステップを行います。

1. 制御対象のシステムで、アプリケーション管理用のアプリケーションを登録します。

15 ページの『アプリケーション管理へのアプリケーションの登録 (ローカル設定)』のステップ 1 から 7 までを実行します。

2. 必要に応じて、アプリケーション機能に対して「デフォルト・アクセス」設定を設定します。
3. 必要に応じて、アプリケーション機能に対して「すべてのオブジェクト・アクセス」設定を設定します。
4. 必要に応じて、「カスタマイズ」ボタンを使用して、グループのアクセス設定を変更します。
5. 必要に応じて、「カスタマイズ」ボタンを使用して、ユーザーのアクセス設定を変更します。
6. 「OK」をクリックして、「アプリケーション管理」をクローズします。

関連タスク:

12 ページの『アプリケーション管理の計画』

これらの質問は、アプリケーション管理のローカル設定を介してどの機能を管理するかについて計画するとき役に立ちます。さらに、ユーザーおよびグループがそれらの機能に対してどのタイプのアクセス権を持つかも決定します。

管理システムのセントラル設定のセットアップ

これらのステップでは、システムを管理システムとして構成するために必要なアクションの概略について説明します。

1. **System i Navigator** で、管理システムにするシステムを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
2. 「管理システム」タブを選択します。
3. 「管理システム」を選択します。
4. 『管理システムおよびセントラル設定の計画』におけるユーザーの回答に基づいて、これらのフィールドに記入します。
5. 「ユーザー管理のカスタマイズ (Customize Administration of Users)」を選択する場合は、以下のステップを実行します。
 - a. 「ユーザーおよびグループ」リストからユーザーまたはグループを選択します。
 - b. 「デフォルトとして設定 (Set as default)」、「追加」、または「除去」をクリックします。追加および除去のアクションは、「管理されているユーザー (Users administered)」リストまたは「管理されていないユーザー (Users not administered)」リストに対して使用することができます。その他の場合は、ユーザーまたはグループをデフォルト設定で管理するように指定することができます。
 - c. その他のユーザーまたはグループをカスタマイズする場合も、同じ処理を繰り返します。
 - d. 「OK」をクリックして、「ユーザー管理のカスタマイズ (Customize Administration of Users)」ダイアログをクローズします。
6. インストール・イメージを使用してインストールするクライアント上で、初期管理システムを設定する場合、以下のステップを完了します。
 - a. 「インストール・イメージにある管理システムの設定 (Set Installation Image Administration System)」をクリックします。
 - b. インストール・イメージの場所を指定するか、「参照」をクリックして該当するインストール・イメージを見つけます。

- c. 更新されたインストール・イメージを使用してインストールするすべてのクライアントについて、初期管理システムとして指定する管理システムを選択します。
 - d. 「**OK**」をクリックします。
7. 「**OK**」をクリックして、「プロパティ」ページをクローズします。このシステムが管理システムになります。

アプリケーション管理の管理

アプリケーション管理により、機能、ユーザー、またはグループにアクセス設定を指定できます。パスワードが失効する前にユーザーに警告したり、ユーザーやグループがアクセス可能な環境を指定したりするなど、その他の機能を制御する場合には、セントラル設定を使用できます。

アプリケーション管理へのアプリケーションの登録 (ローカル設定)

アプリケーション管理を使用して、ユーザーまたはグループに対して特定の機能へのアクセスを許可または拒否する場合、アプリケーションを登録する必要があります。

特定のシステムにアプリケーションを登録することによって、その特定のシステムにサインオンしたすべてのユーザーおよびグループが、そのアプリケーションを使用できるようになります。実際にアプリケーションの管理可能な機能にアクセスできるかどうかは、各ユーザーやグループのアクセス設定に応じて決まります。

アプリケーションは、ローカル設定またはセントラル設定で登録できます。アプリケーションをローカル設定でのみ登録すると、アプリケーションの管理可能な機能に対するアクセスの許可または拒否のみを行えます。アプリケーションをセントラル設定を使用して登録する場合は、管理可能な機能へのアクセスを許可または拒否するだけでなく、拡張設定 (パスワード、環境、言語、サービス、接続属性を登録すること、および新規プラグインが使用可能かを自動的に判別することが可能) を含むセントラル設定を使用して作業することができます。

アプリケーションをローカル設定を使用して登録するには、以下のステップを完了させます。

1. **System i Navigator** から、アプリケーションを登録するシステムを右クリックするか、**IBM Navigator for i** から、「**IBM i の管理**」 > 「**システム**」を展開します。
2. 「**アプリケーション管理**」を選択します。
3. 管理システム上にいる場合、「**ローカル設定 (Local Settings)**」を選択します。そうでない場合は、次のステップに進みます。
4. 「**アプリケーション**」をクリックします。
5. 管理するアプリケーションを機能のカラムから選択します。
6. 「**追加**」をクリックして、管理するアプリケーションのリストにアプリケーションを追加します。
7. 「**OK**」をクリックして、「**アプリケーション**」ダイアログをクローズします。
8. 「**OK**」をクリックして、「**アプリケーション管理**」ダイアログをクローズします。

関連タスク:

16 ページの『**管理システムへのアプリケーションの登録 (セントラル設定)**』

アプリケーション管理を使用して、ユーザーまたはグループに対して特定の機能へのアクセスを許可または拒否する場合、アプリケーションを登録する必要があります。

関連資料:

2 ページの『**アプリケーションの登録 (ローカル設定)**』

「**アプリケーション (ローカル設定)**」ダイアログには、**System i Navigator** とクライアント・アプリケー

ションのリストが表示されます。

管理システムへのアプリケーションの登録 (セントラル設定)

アプリケーション管理を使用して、ユーザーまたはグループに対して特定の機能へのアクセスを許可または拒否する場合、アプリケーションを登録する必要があります。

特定のシステムにアプリケーションを登録することによって、この特定のシステムにサインオンしたすべてのユーザーおよびグループが、そのアプリケーションを使用できるようになります。実際にアプリケーションの管理可能な機能にアクセスできるかどうかは、各ユーザーやグループのアクセス設定に応じて決まります。

アプリケーションは、ローカル設定またはセントラル設定で登録できます。アプリケーションをローカル設定でのみ登録すると、アプリケーションの管理可能な機能に対するアクセスの許可または拒否のみを行えます。アプリケーションをセントラル設定で登録すると、管理可能な機能に対するアクセスの許可または拒否を行う以外にも、拡張設定 (パスワード、環境、言語、サービス、接続、およびプラグインなど) を含むセントラル設定を操作できます。

管理システムのセントラル設定に、以下のアプリケーションを登録できます。

IBM i Access for Windows

このアプリケーションには、「管理システム」 > 「アプリケーション管理」 > 「セントラル設定」の順に右クリックすると表示される管理機能が含まれています。IBM i Access for Windows を登録する場合、13 ページの『アプリケーション管理のローカル設定のセットアップ』のステップ 2 から 6 までを完了する必要があります。

IBM i Access for Windows の拡張設定

このアプリケーションには、IBM i Access for Windows の拡張設定が備わっています。拡張設定には、パスワード、環境、言語、サービス、接続、および新規プラグインが使用可能であるかどうかを自動的に判別することが含まれています。これらの設定は、「管理システム」 > 「アプリケーション管理」 > 「セントラル設定」の順に右クリックしてから、「拡張設定」をクリックすると表示されます。

アプリケーションを管理システムのセントラル設定で登録するには、以下のステップを完了させます。

1. **System i Navigator** から、アプリケーションを登録する管理システムを右クリックするか、IBM Navigator for i から、「**IBM i の管理**」 > 「**システム**」を展開します。
2. 「**アプリケーション管理**」 > 「**セントラル設定**」の順に選択します。
3. 「**アプリケーション**」をクリックします。
4. 管理するアプリケーションを、管理者が使用できるアプリケーションのリストから選択します。
5. 「**追加**」をクリックして、管理するアプリケーションのリストにアプリケーションを追加します。
6. 「**OK**」をクリックして、「アプリケーション」ダイアログをクローズします。
7. 「**OK**」をクリックして、「アプリケーション管理」ダイアログをクローズします。

関連タスク:

15 ページの『アプリケーション管理へのアプリケーションの登録 (ローカル設定)』

アプリケーション管理を使用して、ユーザーまたはグループに対して特定の機能へのアクセスを許可または拒否する場合、アプリケーションを登録する必要があります。

18 ページの『セントラル設定の処理』

アプリケーション管理のセントラル設定を使用すると、従来は IBM i Access for Windows ポリシーで管理されていた IBM i Access for Windows のいくつかの機能を、管理者が制御できるようになります。

関連資料:

3 ページの『アプリケーションの登録 (セントラル設定)』

アプリケーションを最初に登録 (または追加) する際には、デフォルトで、すべてのユーザーおよびグループがアプリケーションの機能に対するアクセスを許可されます。登録済みのアプリケーションは、アプリケーション管理を使用して管理でき、そのアプリケーションの機能にアクセスするユーザーを制御できます。

機能のアクセス設定の処理

アプリケーション管理を使用すると、機能のアクセス設定を表示または編集できます。

機能のアクセス設定を処理するには、以下のステップを行います。

1. **System i Navigator** から、アクセス設定を変更する対象の機能を含んだシステムを右クリックするか、**IBM Navigator for i** から、「**IBM i の管理**」 > 「**システム**」を展開します。
2. 「**アプリケーション管理**」を選択します。
3. 管理システム上にいる場合、「**ローカル設定 (Local Settings)**」を選択します。そうでない場合は、次のステップに進みます。
4. 「**管理可能な機能 (administrable function)**」を選択します。
5. 必要に応じて、「**デフォルト・アクセス**」を選択します。これを選択すると、デフォルトですべてのユーザーが機能にアクセスできるようになります。
6. 必要に応じて、「**すべてのオブジェクト・アクセス**」を選択します。これを選択すると、すべてのオブジェクトのシステム特権を持つすべてのユーザーが機能にアクセスできるようになります。
7. 必要に応じて、「**カスタマイズ**」を選択します。「**アクセスのカスタマイズ**」ダイアログの「**追加**」および「**除去**」ボタンを使用して、「**アクセス許可**」リストおよび「**アクセス否認**」リストでユーザーを追加または除去します。
8. 必要に応じて、「**カスタマイズの除去**」を選択します。これを選択すると、選択されている機能から、カスタマイズされたアクセスが削除されます。
9. 「**OK**」をクリックして、「**アプリケーション管理**」ダイアログをクローズします。

System i Navigator でのユーザーまたはグループのアクセス設定の処理

アプリケーション管理を使用して、ユーザーやグループがアクセス可能な機能を識別できます。また、ユーザーまたはグループの特定の機能に対するアクセスをカスタマイズすることもできます。

ユーザーまたはグループのアクセス設定を処理するには、以下のステップを行います。

1. **System i Navigator** から、「**ユーザーおよびグループ**」を展開します。
2. 「**すべてのユーザー**」、「**グループ**」、または「**グループ内にはないユーザー**」を選択し、ユーザーおよびグループのリストを表示します。
3. ユーザーまたはグループを右クリックし、「**プロパティ**」を選択します。
4. 「**機能**」を選択します。
5. 「**アプリケーション**」タブをクリックします。
6. このページで、ユーザーまたはグループのアクセス設定を変更します。
7. 「**OK**」を 2 回クリックして、「**プロパティ**」ダイアログをクローズします。

手順に不明な点がある場合は、**System i Navigator** のオンライン・ヘルプでダイアログの各フィールドに関する詳細を参照してください。

注: 場合によっては、ユーザーは読み取り専用のアクセスのみ許可されることがあります。これは、機能がすべてのオブジェクトのアクセス権を持ち、ユーザーがすべてのオブジェクトのシステム特権を持つ場合に起こります。

セントラル設定の処理

アプリケーション管理のセントラル設定を使用すると、従来は IBM i Access for Windows ポリシーで管理されていた IBM i Access for Windows のいくつかの機能を、管理者が制御できるようになります。

アプリケーション管理のセントラル設定を使用して制御できる機能や設定のリストを表示するには、『IBM i Access for Windows ポリシーのリスト』を参照してください。

注: IBM i Access for Windows ポリシーは、これらのセントラル設定を通じて処理できます。ただし、インストール、PC5250 の詳細な設定、およびコンピューター・アクセス (アプリケーション管理では、機能へのアクセスの許可または拒否をコンピューター (PC) に対して指定できません) のポリシーはサポートされません。

以下の図は、「システム」 > 「アプリケーション管理」 > 「セントラル設定」を選択したときに表示されるものです。このダイアログから、セントラル設定についての作業を行うことができます。このダイアログでは、チェック・ボックスを選択することによって、特定の管理可能な機能へのアクセスを許可または拒否することができます。リストされている項目は、「クライアント・アプリケーション」ページにある、管理者が使用できる管理可能な機能です。

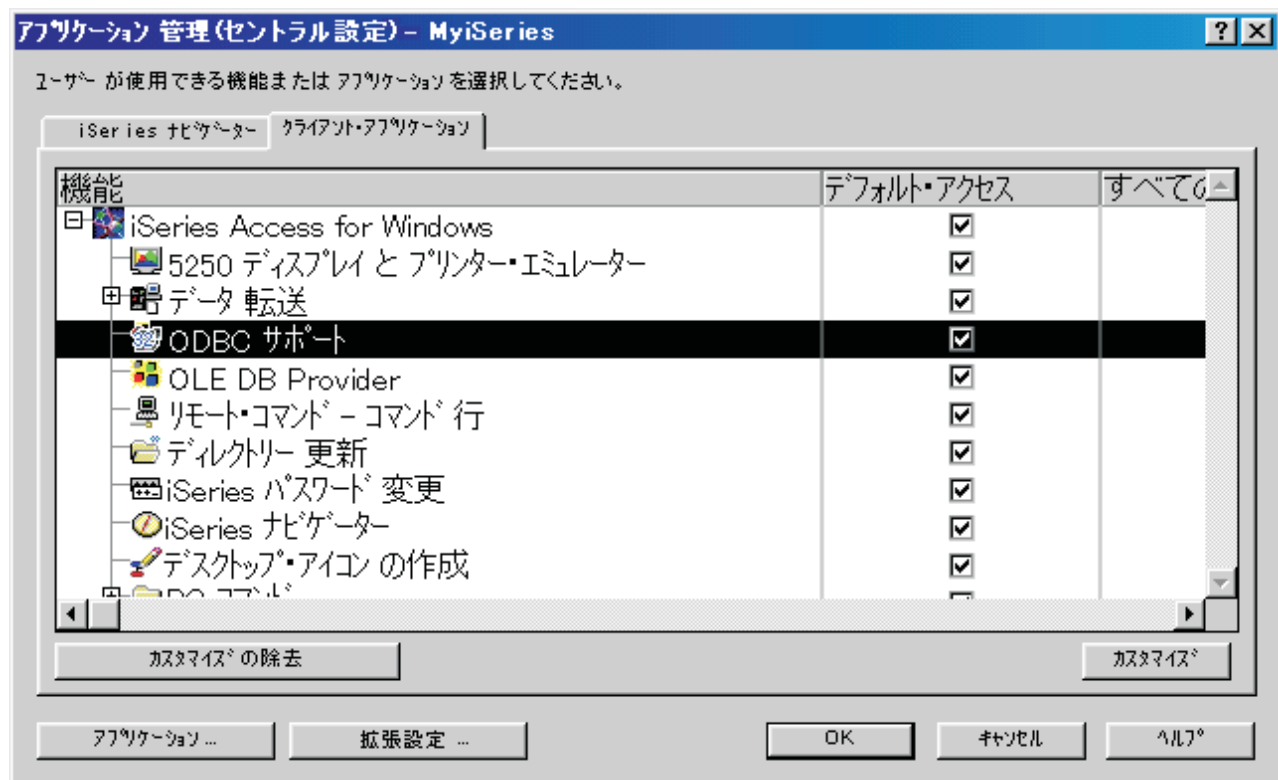


図4. 「アプリケーション管理 (セントラル設定)」ダイアログにリストされている管理可能な機能

「セントラル設定」ページから IBM i Access for Windows の機能を管理できますが、IBM i Access for Windows の拡張設定を処理するには、「拡張設定」をクリックして「拡張設定」ダイアログを開く必要があります。システム管理者は、管理システムからユーザーまたはグループの拡張設定を設定することができます。

ます。管理者は、これらの値を強制するかまたは推奨することができます。拡張設定は、IBM i Access for Windows の拡張設定が登録されている場合にのみ使用できます。

ユーザーまたはグループの拡張設定を処理するには、以下のステップを完了します。

1. **System i Navigator** から「*your administration system*」をクリックするか、IBM Navigator for i から、「**IBM i 管理 (IBM i Management)**」 > 「**システム**」を展開します。
 2. 「**アプリケーション管理**」 > 「**セントラル設定**」の順に選択します。
 3. 「**拡張設定**」をクリックします。
 4. 作業を行うユーザーまたはグループを選択します。
 5. 「**接続**」タブ付きページをクリックして、サインオン情報、パフォーマンス設定、およびユーザーやグループがシステムに接続する際に Secure Sockets layer (SSL) を使用するかどうかを設定します。パッドロックをクリックして、値を強制値から推奨値 (またはその逆) に変更します。
 6. 「**パスワード**」タブをクリックして、パスワードが失効する前にユーザーに警告するかどうかを指定します。パスワードをキャッシュ可能にするかどうか、およびキャッシュ不可にした場合にすべての着信リモート・コマンドを許可するかどうかを指定することもできます。パッドロックをクリックして、値を強制値から推奨値 (またはその逆) に変更します。
 7. 「**言語**」タブをクリックして、文字変換の指定変更についてデフォルトまたはユーザー定義の値を指定します。また、双方向のスクリプト変換を使用可能にするように指定することもできます。パッドロックをクリックして、値を強制値から推奨値 (またはその逆) に変更します。
 8. 「**サービス**」タブをクリックして、バックグラウンドのサービス・ジョブを自動的に開始するかどうかを指定します。パッドロックをクリックして、値を強制値から推奨値 (またはその逆) に変更します。
 9. 「**環境**」タブを選択して、選択されているユーザーまたはグループが使用できる環境を指定します。システム管理者により定義された環境は、ユーザーまたはグループは変更できません。
- 注: この情報は、IBM i Access for Windows ポリシーとは異なります。
10. 「**プラグイン**」タブ付きページをクリックします。このページを使用して、新規プラグインがインストール可能である場合に自動的に判別するかどうかを指定できます。デフォルトでは、「**新規プラグインがインストール可能かどうかを自動的に判別**」が選択されています。このボックスが選択されている場合、IBM i オペレーティング・システムは、クライアントへの最初の接続時に、クライアントをスキャンしてプラグインを探します。システムにクライアント用の追加のプラグインがある場合、そのシステムからそれらのプラグインのインストールを指示するプロンプトが出されます。この設定は、「**新規プラグインがインストール可能かどうかを自動的に判別**」ボックスを選択解除するとオフにできます。
 11. 「**OK**」をクリックして、「**拡張設定**」ダイアログをクローズします。
 12. 「**OK**」をクリックして、「**アプリケーション管理**」ダイアログをクローズします。

関連タスク:

16 ページの『管理システムへのアプリケーションの登録 (セントラル設定)』

アプリケーション管理を使用して、ユーザーまたはグループに対して特定の機能へのアクセスを許可または拒否する場合、アプリケーションを登録する必要があります。

アプリケーション管理シナリオ

これらのシナリオでは、アプリケーション管理を企業ストラテジーに適用する方法を説明します。これらのシナリオではある企業の計画について説明し、アプリケーション管理を使用してその計画を実行する方法について説明します。

関連概念:

13 ページの『アプリケーション管理のセットアップ』

アプリケーション管理を構成するには、各システムのローカル設定を個別に構成する必要があります。また、管理システムも構成する必要があります。

シナリオ: アプリケーション管理のセットアップ

このシナリオでは、アプリケーション管理を介してシステムを管理するように計画し、構成する方法を説明します。ユーザーのアクセス権をユーザーの業務に特有のアプリケーションや機能に制限することで、アプリケーションに対するユーザーのアクセス権を制御する方法を説明します。

社内のネットワークに、以下のクライアント・アプリケーションを実行するシステム (System001) があると想定します。

製造アプリケーション

以下の管理可能な機能を持つクライアント・インターフェース

- 在庫管理
- オーダー実行

財務アプリケーション

以下の管理可能な機能を持つクライアント・インターフェース

- 売掛管理
- 予算

ユーザーは、IBM i Access for Windows と **System i Navigator** を使用するか、IBM Navigator for i を使用してシステムにアクセスします。アプリケーション管理を使用して管理するアプリケーションを判別し、ユーザーが各機能に必要なとするアクセスのタイプを評価する必要があります。

ステップ 1: アプリケーション管理ストラテジーの計画

どのアプリケーションを管理するか。

System001 には、2 つの別個のユーザー・グループ (製造アプリケーションのユーザー・グループと財務アプリケーションのユーザー・グループ) が存在します。製造ユーザーは財務アプリケーションにアクセスできません。また、財務ユーザーは製造アプリケーションにアクセスできません。さらに、さまざまな **System i Navigator** 機能に対する各グループのアクセス設定は異なります。このため、製造アプリケーションと財務アプリケーションを System001 に登録する必要があります。IBM i Access for Windows およびその管理可能な機能 (**System i Navigator**) は、アプリケーション管理をインストールするときに自動的に登録されるため、**System i Navigator** を登録する必要はありません。

アプリケーションの管理可能な機能に対し、どのタイプのアクセスをユーザーに許可するか。

製造アプリケーションを使用するユーザーはすべて MFGUSER というユーザー・グループに所属します。製造チームのリーダーはすべて MFGLEAD というユーザー・グループにも所属します。財務アプリケーションを使用するユーザーはすべて FINANCE というユーザー・グループに所属します。ユーザー・グループの判別後、System001 上のアプリケーションのユーザーに、以下のアプリケーションに対するアクセス権を与えることができます。

製造アプリケーション

在庫管理

この機能にアクセスする必要があるのは Judy、Natasha、Jose、および Alex のみです。

オーダー実行

Alex 以外のすべての製造チーム・リーダーがこの機能へのアクセス権を必要とします。

財務アプリケーション

売掛管理

FINANCE のすべてのメンバーがこの機能へのアクセス権を必要とします。

予算 FINANCE のすべてのメンバーがこの機能へのアクセス権を必要とします。

System i Navigator

- すべての製造ユーザーは、基本オペレーションに対するアクセス権を必要とします。
- すべての財務ユーザーは、基本オペレーション、データベース、およびファイル・システムに対するアクセス権を必要とします。
- すべてのシステム管理者は、すべての **System i Navigator** 機能へのアクセス権を必要とします。

注: このシステムの管理者は、製造アプリケーションや財務アプリケーションに対するアクセス権を必要としません。すべての管理者は、すべてのオブジェクトのシステム特権を持ちます。

ステップ 2: アプリケーション管理ストラテジーのセットアップ

アプリケーション管理ストラテジーの計画で集めた情報に基づいて、以下のようにそれぞれのアプリケーションの管理可能な機能についてのアクセス設定を構成します。

製造アプリケーション

在庫管理

1. 「アプリケーション管理」ダイアログの「クライアント・アプリケーション」ページを開きます。
2. 「製造アプリケーション」を展開します。
3. 「在庫管理」の「デフォルト・アクセス」を選択解除します。
4. 「カスタマイズ」をクリックします。「アクセスのカスタマイズ」ダイアログが開きます。
5. 「アクセス」フィールドの「全オブジェクト・システム特権」を選択解除します。
6. 「ユーザーおよびグループ」リスト・ボックスの「すべてのユーザー」を展開します。
7. すべてのユーザーのリストから Judy、Natasha、Jose、および Alex を選択して「追加」をクリックし、「アクセス許可」リストに追加します。
8. 「OK」をクリックしてアクセス設定を保管します。
9. 「オーダー実行」の「デフォルト・アクセス」を選択解除します。
10. 「カスタマイズ」をクリックします。「アクセスのカスタマイズ」ダイアログが開きます。
11. 「アクセス」フィールドの「全オブジェクト・システム特権を持つユーザー」を選択解除します。
12. 「ユーザーおよびグループ」リスト・ボックスの「すべてのユーザー」を展開します。
13. すべてのユーザーのリストから Alex を選択して「追加」をクリックし、「アクセス否認」リストに追加します。
14. 「ユーザーおよびグループ」リスト・ボックスの「グループ」を展開します。
15. グループ・リストから MFGLEAD を選択して「追加」をクリックし、「アクセス許可」リストに追加します。

16. 「OK」をクリックしてアクセス設定を保管します。

財務アプリケーション

すべての機能

1. 「アプリケーション管理」ダイアログの「クライアント・アプリケーション」ページを開きます。
2. 「財務アプリケーション」を展開します。
3. 「売掛管理」の「デフォルト・アクセス」を選択解除します。
4. 「カスタマイズ」をクリックします。「アクセスのカスタマイズ」ダイアログが開きます。
5. 「アクセス」フィールドの「全オブジェクト・システム特権を持つユーザー」を選択解除します。
6. 「ユーザーおよびグループ」 リスト・ボックスの「グループ」を展開します。
7. グループ・リストから「FINANCE」を選択して「追加」をクリックし、グループを「アクセス許可」リストに追加します。
8. 「OK」をクリックしてアクセス設定を保管します。
9. 「予算」についてこのステップを繰り返します。

System i Navigator

基本オペレーション

1. 「アプリケーション管理」ダイアログから、「System i ナビゲーター」ページを開きます。
2. 「基本操作」の「デフォルト・アクセス」および「すべてのオブジェクト・アクセス」を選択します。
3. 「OK」をクリックしてアクセス設定を保管します。

データベース

1. 「アプリケーション管理」ダイアログから、「System i ナビゲーター」ページを開きます。
2. 「データベース」の「デフォルト・アクセス」を選択解除します。
3. 「カスタマイズ」をクリックします。「アクセスのカスタマイズ」ダイアログが開きます。
4. 「アクセス」フィールドの「全オブジェクト・システム特権を持つユーザー」を選択します。
5. 「ユーザーおよびグループ」 リスト・ボックスの「グループ」を展開します。
6. グループ・リストから「FINANCE」を選択して「追加」をクリックし、グループを「アクセス許可」リストに追加します。
7. 「OK」をクリックしてアクセス設定を保管します。

ファイル・システム

1. 「アプリケーション管理」ダイアログから、「System i ナビゲーター」ページを開きます。
2. 「ファイル・システム」の「デフォルト・アクセス」を選択解除します。
3. 「カスタマイズ」をクリックします。「アクセスのカスタマイズ」ダイアログが開きます。
4. 「アクセス」フィールドの「全オブジェクト・システム特権を持つユーザー」を選択します。
5. 「ユーザーおよびグループ」 リスト・ボックスの「グループ」を展開します。
6. グループ・リストから「FINANCE」を選択して「追加」をクリックし、グループを「アクセス許可」リストに追加します。
7. 「OK」をクリックしてアクセス設定を保管します。

その他のすべての System i Navigator 機能

1. 「アプリケーション管理」ダイアログから、「System i ナビゲーター」ページを開きます。
2. それぞれの機能について「デフォルト・アクセス」を選択解除し、「すべてのオブジェクト・アクセス」を選択します。
3. 「OK」をクリックしてアクセス設定を保管します。

アプリケーション管理のローカル設定を使用して、ユーザーのアクセスを特定の機能に制限する環境がセットアップされました。

関連資料:

『シナリオ: System i Navigator での管理システムのセントラル設定のセットアップ』

このシナリオは、アプリケーション管理のセットアップに関するシナリオと同じ設定に基づいています。ただし、このシナリオでは、セントラル設定を備える管理システムとしてシステムを定義する方法についても説明しています。

シナリオ: System i Navigator での管理システムのセントラル設定のセットアップ

このシナリオは、アプリケーション管理のセットアップに関するシナリオと同じ設定に基づいています。ただし、このシナリオでは、セントラル設定を備える管理システムとしてシステムを定義する方法についても説明しています。

アプリケーション管理のセットアップのシナリオでは、特定の製造アプリケーションや財務アプリケーションに対するアクセスを管理するために、システムでアプリケーション管理をセットアップしました。システムを管理システムとして定義することによって、セントラル設定を管理することができます。これらの設定により、サインオン、接続、言語、環境、サービス、パスワードの情報や、新規プラグインが使用可能であることを自動的に判別するかどうかを制御する拡張設定を使用できます。さらに、IBM i Access for Windows のいくつかの追加機能に対するアクセスも制御できます。

ステップ 1: 管理システム・ストラテジーの計画

どのユーザーを管理するか。

すべてのユーザーは、各種の機能に対して特定のアクセス設定を持っているため、アクセス設定を実行するにはすべてのユーザーを管理する必要があります。そうしないと、すべてのユーザーがすべての機能にアクセスする可能性があります。

変更済みのインストール・イメージを使用してアプリケーションをインストールするすべてのユーザーに、指定された管理システムを使用させるかどうか。

製造担当員と財務担当員が使用できるシステムは、System001 だけです。System001 には、各ユーザーの拡張設定が収容されているので、ユーザーがアプリケーションのインストールを行う際に、管理システムとして自動的に System001 を使用させます。これらのユーザーの環境において、これが唯一の管理システムであるため、System001 を管理システムのインストール・イメージとして指定します。

クライアントの設定を管理システムの設定と確実に一致させるために、どれくらいの頻度でクライアント側のキャッシュの妥当性検査を行うか。

セントラル設定は、最初のセットアップ以降頻繁に変更されることはありません。しかし、変更があった場合は、ネットワーク内のすべての IBM i Access for Windows クライアントに、1 週間以内に変更内容を配布する必要があります。このため、スキャンの頻度を「7 日に 1 回 (Once every seven days)」に設定する必要があります。

セントラル設定を使用して管理する IBM i Access for Windows アプリケーションのうち、どれをユーザーおよびグループに対して使用可能にするか。

中央管理されるアプリケーションの中で、管理可能な機能のリモート・コマンド - コマンド行以外のすべてのアプリケーションは、すべてのユーザーおよびグループが使用できるようにする必要があります。

どの拡張設定を強制または推奨するか。

すべてのユーザーが必ずデフォルト ID (必要に応じてプロンプトが出される) を使用してシステムにサインオンし、パスワードが失効する前にユーザーに確実に警告メッセージを出す必要があります。そのため、サインオン情報とパスワード失効の警告を強制する必要があります。強制することで、ユーザーはこの 2 つの設定を変更できなくなります。その他のすべての拡張設定は推奨される状態になるため、システム管理者が推奨した値をユーザーは変更できます。

ステップ 2: 管理システムのセットアップ

管理システムの定義

このステップでは、管理システムで実際に機能を管理するために必要なアクションの概略について説明します。

1. 「**System001**」を右クリックし、「**プロパティ**」を選択します。
2. 「**管理システム**」ページを選択します。
3. 「**管理システム**」を選択します。
4. スキャンの頻度に対し「**日数 (Number of days)**」を選択し、「**7 日 (7 days)**」を指定します。
5. 「**デフォルトでユーザーを管理 (Administer users by default)**」を選択します。
6. 「**インストール・イメージにある管理システムの設定 (Set Installation Image Administration System)**」をクリックします。
7. インストール・イメージの場所を指定するか、または「**参照**」をクリックしてインストール・イメージを見つけます。
8. 管理システムに、「**System001**」を指定します。
9. 「**OK**」をクリックして、「**インストール・イメージにある管理システムの設定 (Set Installation Image Administration System)**」ダイアログをクローズします。
10. 「**OK**」をクリックして、「**プロパティ**」ダイアログをクローズします。

セントラル設定の設定

このステップでは、管理システムの拡張設定を設定するために必要なアクションの概略について説明します。

1. 「**System001**」を右クリックします。
2. 「**アプリケーション管理**」 > 「**セントラル設定**」の順に選択します。
3. 「**リモート・コマンド - コマンド行 デフォルト・アクセス (Remote Command-Command Line Default Access)**」を選択解除します。
4. 「**リモート・コマンド - コマンド行 すべてのオブジェクト・アクセス (Remote Command-Command Line All Object Access)**」を選択解除します。
5. 「**拡張設定**」をクリックします。
6. 「**パスワード (Passwords)**」ページを選択します。
7. 「**サーバー・パスワードが失効する前にユーザーに警告 (Warn users before server password expires)**」を選択します。

8. 失効する 10 日前に警告メッセージをユーザーに送信するように 「10 日 (10 days)」を指定します。
9. この値の前にあるパッドロックをクリックして、この値を強制します。(パッドロックはクローズされるはずです。)
10. 「**接続**」 ページを選択します。
11. 「**デフォルトのユーザー ID を使用、必要に応じてプロンプトを出す (Use default user ID, prompt as needed)**」を選択します。
12. パッドロックをクリックして、この値を強制します。(パッドロックはクローズされるはずで
す。)
13. その他のすべての拡張設定を推奨値にしておきます。これらの設定のパッドロックはオープン
になっているはずで
す。
14. 「**OK**」をクリックして、「**拡張設定**」ダイアログをクローズします。
15. 「**OK**」をクリックして、「**アプリケーション管理**」ダイアログをクローズします。

セントラル設定を持つ管理システムがセットアップされました。セントラル設定内で、各企業のニーズを満たすように拡張設定を選択できます。

関連資料:

20 ページの『シナリオ: アプリケーション管理のセットアップ』

このシナリオでは、アプリケーション管理を介してシステムを管理するように計画し、構成する方法を説明します。ユーザーのアクセス権をユーザーの業務に特有のアプリケーションや機能に制限することで、アプリケーションに対するユーザーのアクセス権を制御する方法を説明します。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

Software Interoperability Coordinator, Department YBWA

3605 Highway 52 N

Rochester, MN 55901

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. _年を入れる_.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書には、プログラムを作成するユーザーが IBM i のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 Office of Government Commerce の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Cell Broadband Engine は、Sony Computer Entertainment, Inc.の米国およびその他の国における商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。



プログラム番号: 5770-SS1

Printed in Japan

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21